

千葉都市モノレール 中期経営計画

2025～2027年度



千葉都市モノレール株式会社
Chiba Urban Monorail

はじめに

新型コロナウイルスの蔓延による影響で人流が停滞していた時期を脱し、社会全体がポストコロナと称される新たなステージへと向かっています。「安全・安定輸送」「人と街を結ぶ事業」を提供している弊社にとって、移動需要の回復は明るい話題ではあるものの、少子高齢化による沿線人口の減少という大きな潮流は避けられない事実です。

コロナ禍で経験した「移動需要の減少」は、図らずも懸念していた将来の課題を顕在化させ、弊社の収入の9割を占める運輸収入の減少がもたらす意味を痛感することとなりました。また不安定な世界情勢はエネルギー価格や資材調達費の高騰につながっており、近年の頻発・激甚化する自然災害は、「安全・安定輸送の提供」に大きなリスクをもたらす要因として、これまで以上の備えが求められています。

これらの経験と現状を踏まえ、弊社の使命である「安全・安定輸送の提供」をいかに堅持していくのかという課題に向き合い、弊社が地域にどのように貢献し発展していくかを中期経営計画に取りまとめました。

「千葉市には千葉モノレールがある」

人流は街を活性化させる源となります。その使命を担う弊社の役割を最大限に発揮し、地域に根差した企業として、決意を新たに歩みを進めてまいります。

目 次

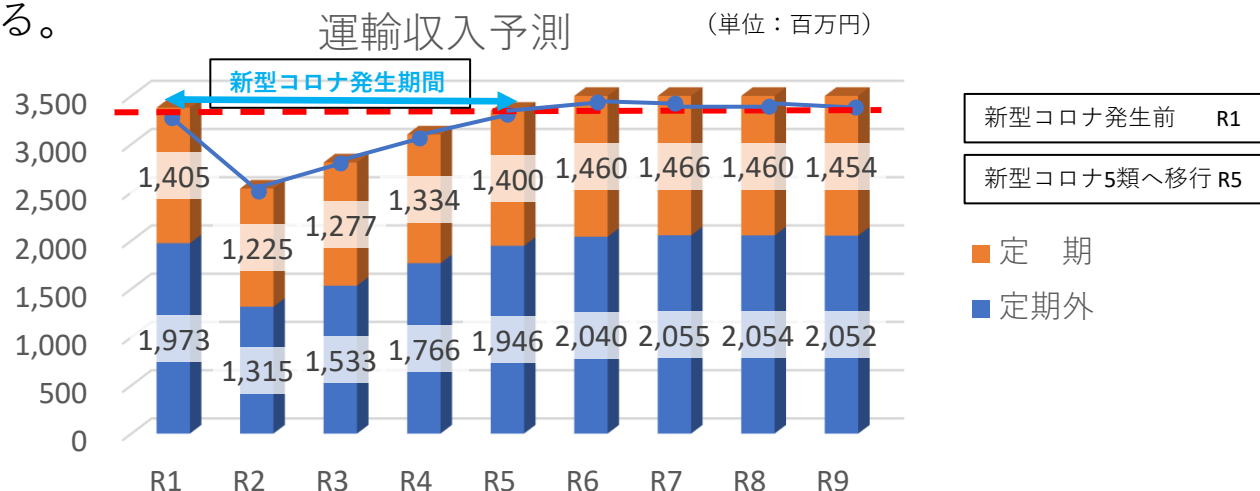
はじめに

1. 現状認識	P 1
2. これまでの実績推移（グラフ）	P 2
3. 前中期経営計画（2022-2024）の基本戦略 実施内容評価（1）（2）	P 3
4. 中期経営計画の位置づけ	P 5
5. 中期経営計画（2025~2027年度）将来の課題と基本戦略	P 6
6. 中期経営計画 将来の課題	P 7
7. 中期経営計画（2025~2027年度）基本戦略	
I. 安全・安定輸送の継続	P 8
II. 沿線地域への貢献（共生・価値創造）	P 9
III. 変化する社会環境への対応力強化① ②	P10
8. 損益収支予測	P12
9. 資金収支予測	P13
10. 数値目標	P14

1. 現状認識

(1) 運輸収入の状況

- ・新型コロナ発生前の水準まで回復することは当面難しいと考えられていたが、新型コロナが5類へ移行後、人流の回復も進み、2024年度は新型コロナ発症前の水準を上回ることが見込まれる。



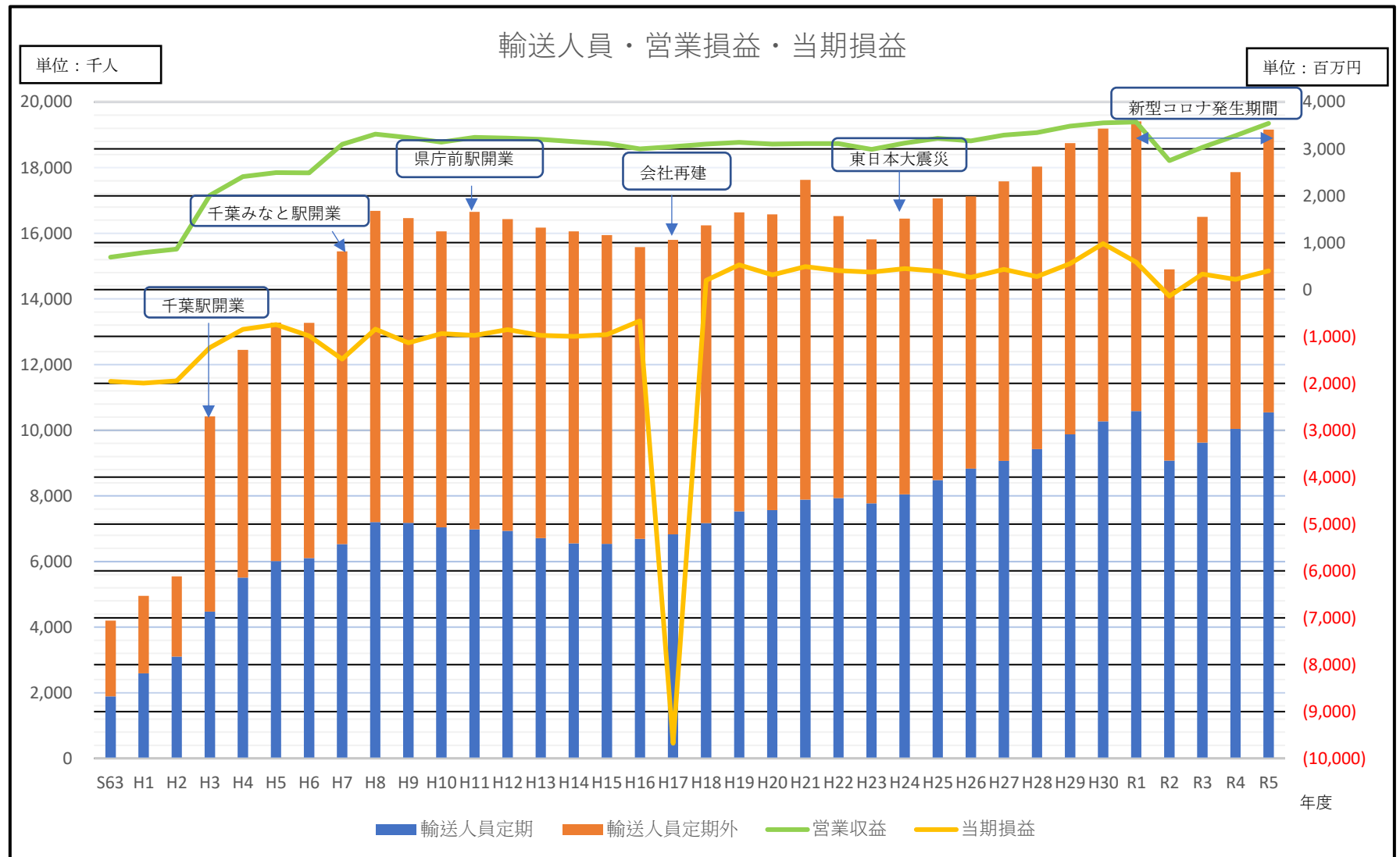
(2) 設備投資計画

- ・安全・安定輸送にかかるATC・車両等の更新計画の実施（令和7年度～令和9年度）
- ・車両更新計画 令和9年度までに6編成の車両を0形に更新
- ・電気室設備更新（令和7年度～令和9年度）

(3) 基本的方針（概略）

- ・地域を支える公共交通機関として安全安定輸送の提供に努める。
- ・沿線の魅力と価値の向上により、沿線地域への居住を促進させるなど集約型都市構造「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」の構築に寄与していく。
- ・脱炭素化社会（2050年カーボンニュートラル）へ向けて、目標を達成する。

2. これまでの実績推移



3. 前中期経営計画（2022－2024）の基本戦略 実施内容評価（1）

基本戦略		(1) 確実な保守点検の継続 経年劣化設備の点検強化（長寿命化対策）	評価・成果	実施した内容及び見直し等
I 安全・安定輸送 の継続		・走行路面点検および部分交換	○	
		・軌道設備調査	○	軌道桁・支柱の劣化調査
		・落下物対策	○	駅舎軒天井設備更新（桜木駅、天台駅、小倉台駅、動物公園駅）
		・駅舎雨漏り対応	○	発生の都度、随時対応（令和5年度実績 38件）
		・車両延命に係る点検項目の追加	○	3次車（第13～15、17編成）の構体検査実施 第13編成アルミホイールの非破壊検査実施
		(2) 計画的な設備更新	評価・成果	実施した内容及び見直し等
		車両：0形7次車1編成を導入	○	2024年2月第29編成導入済み
		通信設備：中央指令所および全駅のITV装置更新 車両基地通信ケーブル更新	○	ITV装置更新：経年劣化対策 解像度向上、ズーム、回転式機能付カメラの導入 長時間記録レコーダーの採用 車両基地通信ケーブル更新：経年劣化対策
		信号設備：千葉みなと駅のATC/TD装置更新 車両基地信号設備・継電連動制御盤更新	○	ATC/TD更新：経年劣化対策、冗長系のスリム化、監視機能強化 継電連動装置：経年劣化対策
		分岐設備：千葉駅12号分岐更新（千葉市施設）	○	経年劣化対策 車両基地分岐設備を併せて実施
		電気設備：駅電気室2駅更新（千葉市施設） 車両基地・本社 直流電源装置	○	電気室更新：1次開業時の8駅中2駅（スポーツセンター駅 動物公園駅）更新完了 経年劣化対策残り6駅（2025以降も継続） 直流電源装置更新：経年劣化対策（電気室更新に先行して実施）
		(3) 事故・災害発生時の対応力強化	評価・成果	実施した内容及び見直し等
	運輸防災マネジメント	○		
	・災害に応じた対応マニュアルの策定	○	防災タイムラインの策定（大規模地震 風水害）	
	・安全管理体制のさらなる充実	○	年次の安全重点施策の策定・実施 PDCAサイクルによる継続的改善	
	・事故 災害発生時の対応訓練、教育の充実	○		
基本戦略		(1) 将来を見据えた経営体質の強化	評価・成果	実施した内容及び見直し等
II 困難に打ち勝つ「企業 力」の強化		・安定的な財務基盤の構築：収入確保と経費節減の徹底	○	
	 	・職場環境の改善：社員への教育活動の充実や経営状況に関する正しい情報の伝達 働き方改革への対応（ダイバシティ経営の推進 雇用形態の多様化）	○	・社長による社員への経営課題説明会の開催（2022年度48人、2023年度62人、2024年度42人） ・法令に基づく育児・介護休業等の関する規程の制定 ・時短勤務の検討 ・ファイルサーバー運用開始 ・情報セキュリティ教育・訓練の実施 ・WEB会議対応 ・総務関係書類の電子申請化 ・リスク評価の実施 ・内部通報制度の啓蒙 ・ハラスメント研修、コンプライアンス研修の実施 ・社会人経験者採用の実施 ・定年退職者の再雇用規程の改正
	 	・カーボンニュートラルへの取り組み：再生可能エネルギーの利用推進 環境に優しいモノレールへの利用転換促進	△	・大容量蓄電池の導入 ・パークアンドライド実施駅の拡大を検討中 ・駅舎への太陽光発電設備の設置
○：計画どおり達成 △：計画内容一部変更・延期 ×：計画取り止め・未着手				

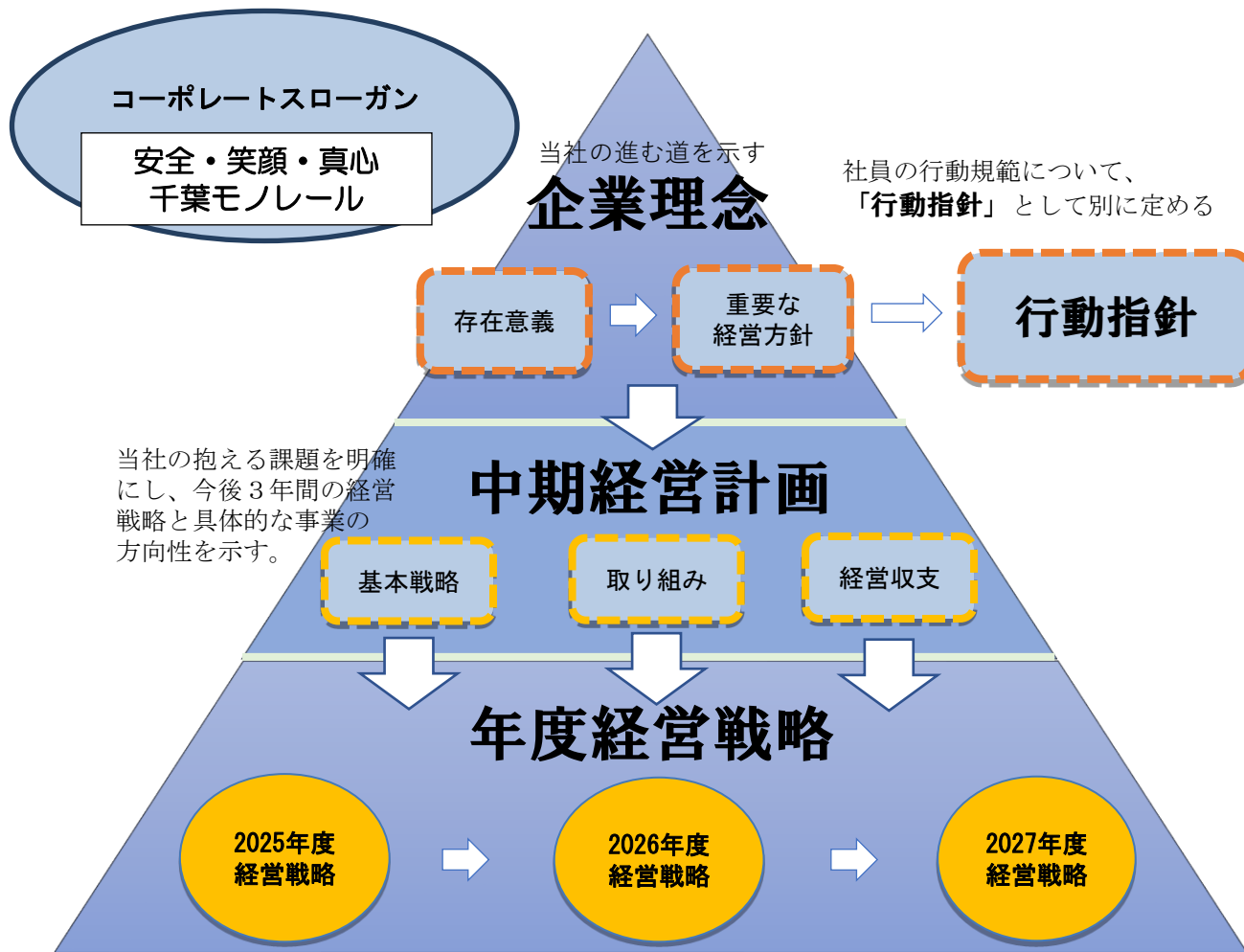
3. 前中期経営計画（2022－2024）の基本戦略 実施内容評価（2）

II 困難に打ち勝つ「企業力」の強化 7 太陽のマークと「7
--

○：計画どおり達成 △：計画内容一部変更・延期 ×：計画取り止め・未着手

4. 中期経営計画の位置づけ

当社のお客様への姿勢を明確に表す



企業理念

- “人と街を結ぶ”事業を通して、地域の発展に貢献します。
- 安全・安定輸送を提供し、常にお客様から信頼される公共交通を目指します。
- 安心、快適にご利用いただくため、お客様の立場に立ったサービスを提供します。
- 創意と工夫により、互いに高め合う活力ある職場をつくれます。

行動指針

- 私達は、お客様の安全を最優先します。
- 私達は、法令を遵守し、誠実に行動します。
- 私達は、お客様に感謝し、真心を持ったサービスを提供します。
- 私達は、沿線の人々とのつながりを深め、地域の活性化に努めます。
- 私達は、活発にコミュニケーションを行い、明るい職場をつくれます。

5. 中期経営計画（2025~2027年度）将来の課題と基本戦略

○将来の課題

安全・安定輸送の継続

企業力

（持続的経営）

沿線地域への
貢献
（共生・価値創造）

変化する
社会環境への
対応力強化

人流の回復傾向が見られる中、生活スタイルの変化に対応した公共交通のあり方も見直さなければならない。それに対応した戦略の着実な取り組みが企業存続に繋がる力となる。

○基本戦略

I 安全・安定輸送の継続

- ・ 人的要因による責任事故ゼロの継続
- ・ 激甚化する災害への対応力強化
- ・ 車両や施設の経年劣化対策（更新・点検・長寿命化）
- ・ 誰でも安心して利用できる交通機関としての環境づくり

II 沿線地域への貢献（共生・価値創造）

- ・ 「選ばれる」公共交通であるための接遇・サービス向上
- ・ インバウンド旅客への積極的アプローチによる需要喚起
- ・ 沿線地域との連携による付加価値の創造

III 変化する社会環境への対応力強化

- ・ 脱炭素化社会への貢献
- ・ 付帯事業の育成による増収施策の推進
- ・ 経営体質の強化
- ・ 新たな運賃体系の検討
- ・ お客様サービスの向上
- ・ 他の公共交通との連携 共生による利用圏域拡大
- ・ 「千葉モノファン」を増やす積極的な情報発信

6. 中期経営計画 将来の課題

○安全・安定輸送の継続

当社は、昭和63年3月の開業時から今日まで、人的要因による責任事故ゼロを継続している。これは、全社員の安全・安定輸送に対する真摯な取り組み、長年にわたる不断の努力の賜物であり、弊社の誇る企業風土となっている。これからも、地域を支える公共交通機関として、安全・安定輸送の継続に努めていく。

一方、第1次開業から36年が経過し、設備の経年劣化・老朽化や自然災害への対応が喫緊の課題になっている。安全・安定輸送の継続に欠かせないこれらの課題に着実に取り組んでいく。

○沿線地域への貢献（共生・価値創造）

鉄道の持つ優れた省エネルギー性能・環境性能に加え、耐震性にも優れたインフラ設備・天候に左右されない優れた定時性など、当社はさまざまなポテンシャルを持っている。それらの良質なインフラストック効果を最大限に生かすことで、モノレールを核とするサステナブルシティを形成し、良質で価値のある地域コミュニティの形成により、千葉市の目指す集約型都市構造「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」の構築にも寄与していく。

○変化する社会環境への対応力強化

近年世界中で発生する災害級の気象現象は、企業においてもより強固なリスク軽減策が求められている。その原因とされる地球温暖化対応として、省エネルギー性に優れた環境にやさしい鉄道業界に対して、より高いレベルでの環境に配慮した取り組みが期待されている。

しかし現実としては、通勤通学という底堅い「移動需要」が少子高齢化によって減少する大きな不安を抱えており、安全・安定輸送を提供する公共交通機関としての使命の継続と、経営的採算性という表裏一体の厳しい課題にバランスよく取り組まなくてはならない。この局面を打開するためには、より具体的に将来を見据えた運賃体系や増収施策の検討・推進、人材の確保・育成、業務・人員配置の効率化、お客様サービスの向上、他の公共交通との連携などによるレジリエンス強化が必要と考えている。

7. 中期経営計画（2025～2027年度）基本戦略

I 安全・安定輸送の継続

（1）人的要因による責任事故ゼロの継続

- 運輸安全マネジメントの推進
- 事故等・災害発生時の対応訓練・教育の充実
- ヒヤリ・ハット報告を活用したヒューマンエラー防止対策の徹底

（2）激甚化する災害への対応力強化

- 自然災害対策マニュアル等を活用した災害対応訓練の強化
- PDCAサイクルに則り策定した災害マニュアル等の最適化の実施
- 警察署・消防署と連携した合同訓練の強化

（3）車両や施設の経年劣化対策（点検・更新・長寿命化）

- 車両の主要部品や電子機器の劣化調査の実施および対策
- ATC/TD装置並びに継電連動装置、信号・通信ケーブルの更新
- 転てつ機の主要部品の更新
- 駅・線路設備の落下物対策の継続
- 次世代車両開発へ向けての基礎研究のスタート

（4）誰でも安心して利用できる交通機関としての環境づくり

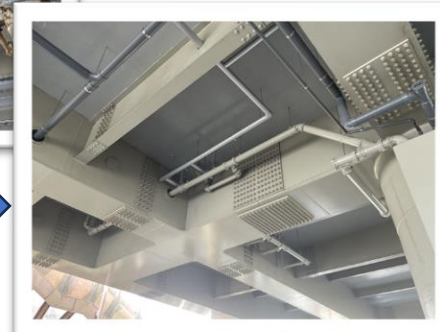
- 各駅に情報モニタの設置を検討
- 内方線付き点状ブロックの敷設
- ホーム縁端部すべり止めの設置（CPラインの設置）



地震初動対応訓練



施工前



施工後

駅舎軒天井設備更新工事

7. 中期経営計画（2025~2027年度）基本戦略

Ⅱ 沿線地域への貢献（共生・価値創造）

（1）「選ばれる」公共交通であるための接遇・サービス向上

- お客様アンケートの実施
- 利用分析調査の実施
- QRコード乗車券など、次世代スタンダード技術の導入へ向けた研究の推進

（2）インバウンド旅客への積極的アプローチによる需要喚起

- 情報発信の強化と新たな情報媒体の開拓
- インバウンド需要を取り込む沿線の魅力発掘
- 外国人向けノベルティの製作

（3）沿線地域との連携による付加価値の創造

- 集客施設・集客イベントとの連携強化による人流の創造
- 子育てしやすい街づくりに対する支援
- 沿線教育機関との街づくり共同企画の実施



台湾TV取材対応



成田空港PRチラシ配架



千葉みなとさんばしまつり



千葉市の子供向けイベント「おしごと感動体験」



沿線案内マップ「モノ旅」

7. 中期経営計画（2025~2027年度）基本戦略

Ⅲ 変化する社会環境への対応力強化①

（1）脱炭素化社会（2050年カーボンニュートラル）への貢献

- CO2削減等、環境負荷の軽減を意識した企業活動「デコ活」の推進
- 環境負荷の低い公共交通利用の促進に向けた啓発事業の実施（対旅客 対社員）
- 環境配慮物品の積極的な採用
- 太陽光発電装置の設置拡大
- モノレールインフラのストック効果を活用した街づくりへの協力

（2）付帯事業の育成による増収施策の推進

- モノちゃんトラベルの活性化
- 遊休スペースの有効活用
- パーク＆ライドの拡充と民間委託の推進

（3）経営体質の強化

- コンプライアンスを重視した企業体質を強化
- 人材を経営資本と捉え、個々の人材価値の向上
- 社員自らが自発的に企業活動へ関与していく企業風土を醸成
- 勤労意欲の向上を目的とした社員のワークライフバランスの向上
- キャリアデザインを描きやすい職場環境の構築
- DXの導入による業務の効率化の推進
- 健康経営の推進



千葉市脱炭素先行地域推進コンソーシアム
第2回総会



パークアンドライド候補地



旅行会社による
車両基地見学ツアー



7. 中期経営計画（2025~2027年度）基本戦略

Ⅲ 変化する社会環境への対応力強化②

（4）新たな運賃体系の検討

- 需要喚起につながる企画券等の検討
- 将来の経営を見据えた適正な運賃の検討

（5）お客様サービスの向上

- 利用状況に応じた運行ダイヤの見直し（朝タラッシュの増便を含め）
- ICTを活用したきめ細やかな旅客案内導入の検討
- サービス介助士資格の取得の推進
- 旅客用トイレのリニューアルの推進
- キャッシュレス決済の導入の検討

（6）他の公共交通との連携 共生による利用圏域拡大

- グリーンスローモビリティに対する支援の継続
- 路線バス・タクシー等との共生の検討

（7）「千葉モノファン」を増やす積極的な情報発信

- SNSを活用した情報発信
- モノレール祭りの開催



グリーンスローモビリティ
リスタート出発式



ちばモノレール祭り2024

8. 損益収支予測

(単位:百万円)

項 目		2024年度 (予算)	2025年度	2026年度	2027年度	2025～ 2027年度
営業収益	運輸収入	3,421	3,521	3,514	3,506	10,541
	運輸雑収	215	193	193	193	579
	合 計	3,636	3,714	3,707	3,699	11,120
営業費		3,585	3,453	3,661	3,542	10,656
営業損益		51	261	46	157	464
営業外損益		55	39	24	11	74
経常損益		106	300	70	168	538

9. 資金収支予測

(単位:百万円)

項 目	2024年度 (予算)	2025年度	2026年度	2027年度
収入 (借入金及び補助金含む)	3,935	5,574	5,567	6,007
支出	4,218	5,457	5,714	5,910
主な設備計画額	1,024 駅務機器更新等	2,360 車両更新等	2,292 車両更新等	2,487 車両更新等
単年度資金過不足	△283	117	△147	97
前期繰越	2,138	1,934	2,051	1,903
資金残高	1,855	2,051	1,903	2,000

10. 数値目標

項 目	2024年度 (予算)	2025年度	2026年度	2027年度
広告収入	55,994千円	58,000千円	58,000千円	56,000千円
構内営業収入	49,120千円	49,120千円	50,000千円	50,000千円
旅行業収入	2,580千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円
電力使用量 (2018年度実績9,900千kwh に対して)	9,174千kwh (△7.3%)	9,118千kwh (△7.9%)	8,854千kwh (△10.6%)	8,558千kwh (△13.6%)



千葉都市モノレール株式会社

Chiba Urban Monorail

